
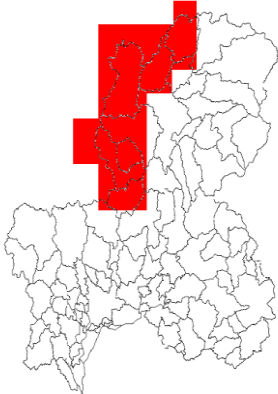


ホロムイソウ	<i>Scheuchzeria palustris</i> L.	絶滅危惧Ⅱ類
		ホロムイソウ科
選定理由	分布域の条件が限られている。	写真(高橋弘) 
形態の特徴	根茎の節から葉を束生する。葉は直立し線形、断面は半円形、先端に排水孔がある。両性花。花梗の先端に総状に数個の花をつける。花期は6-7月。果期8月。	
生態的特徴	湿原に生育する多年草。根茎は硬く、ミズゴケの中を横にはう。	
分布状況	北半球の温帯北部から亜寒帯に広く分布。北海道一本州中北部(東北地方、日光、尾瀬原以北)、近隣地域では長野県に1か所、南限は京都市深泥池で分布域が限定されている。岐阜県においては飛騨地方と美濃地方北西部に見られる。	
減少要因	氷河期の遺存分布と考えられ、氷河時代との環境の変化による。	
保全対策	ミズゴケの生育する湿地の保全。	
特記事項	生育地一帯は県立自然公園になっている。生育地の保全が必要である。	
参考文献	日本の野生植物 草本Ⅰ 平凡社(1982) 原色日本植物図鑑 草本編(下)単子葉類 保育社(1964) 白馬さのさか観光協会 姫川源流・親海湿原資料(2013)	

文責|三品和子